



令和7年度第1回湘南西部地区保健医療福祉推進会議

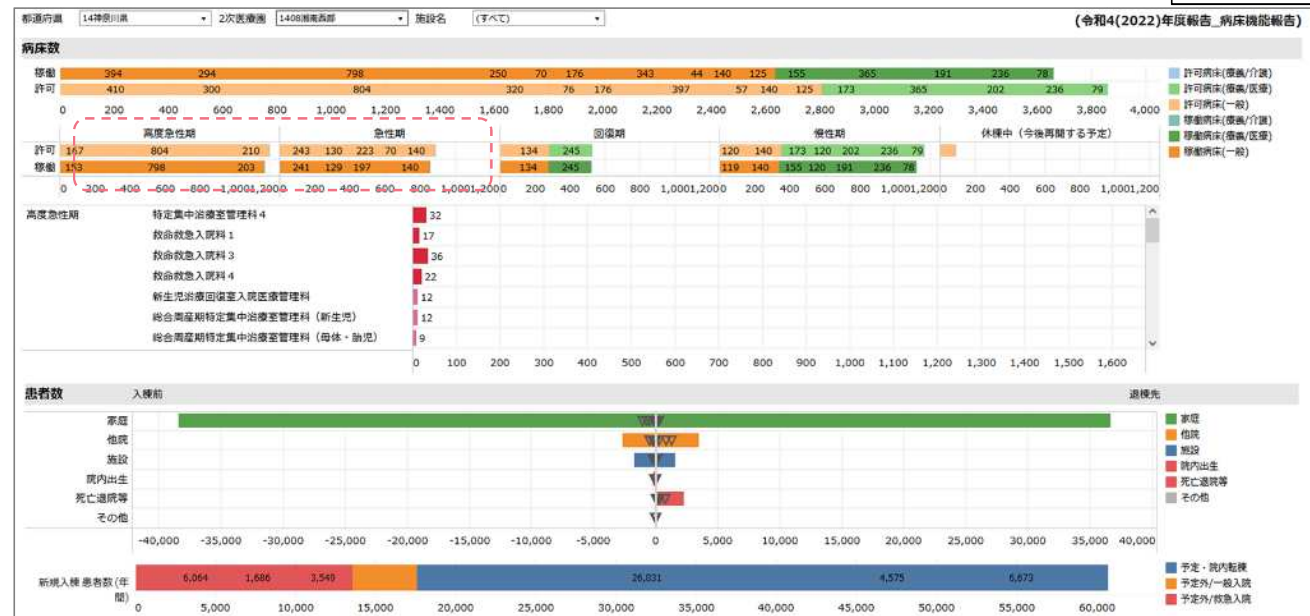
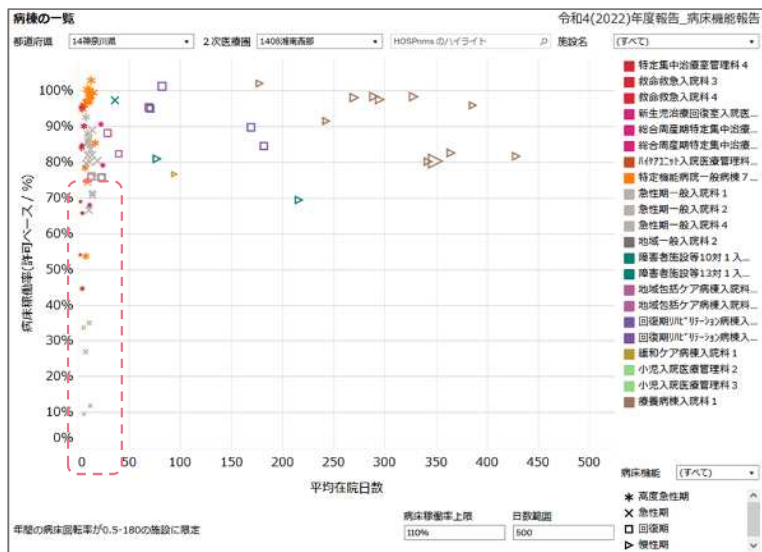
資料2

データ分析結果から見えてくる地域の状況・特徴等について

横浜市立大学 医学群データサイエンス研究科
ヘルスデータサイエンス専攻 講師 清水 沙友里

湘南西部の地域の状況

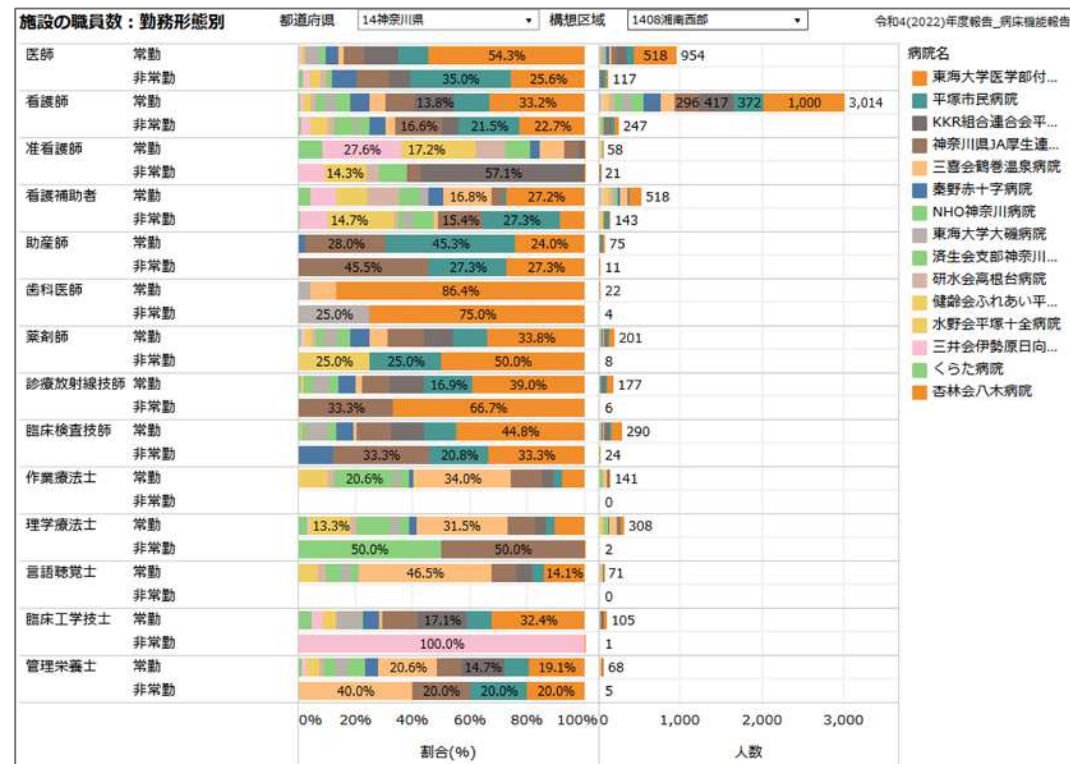
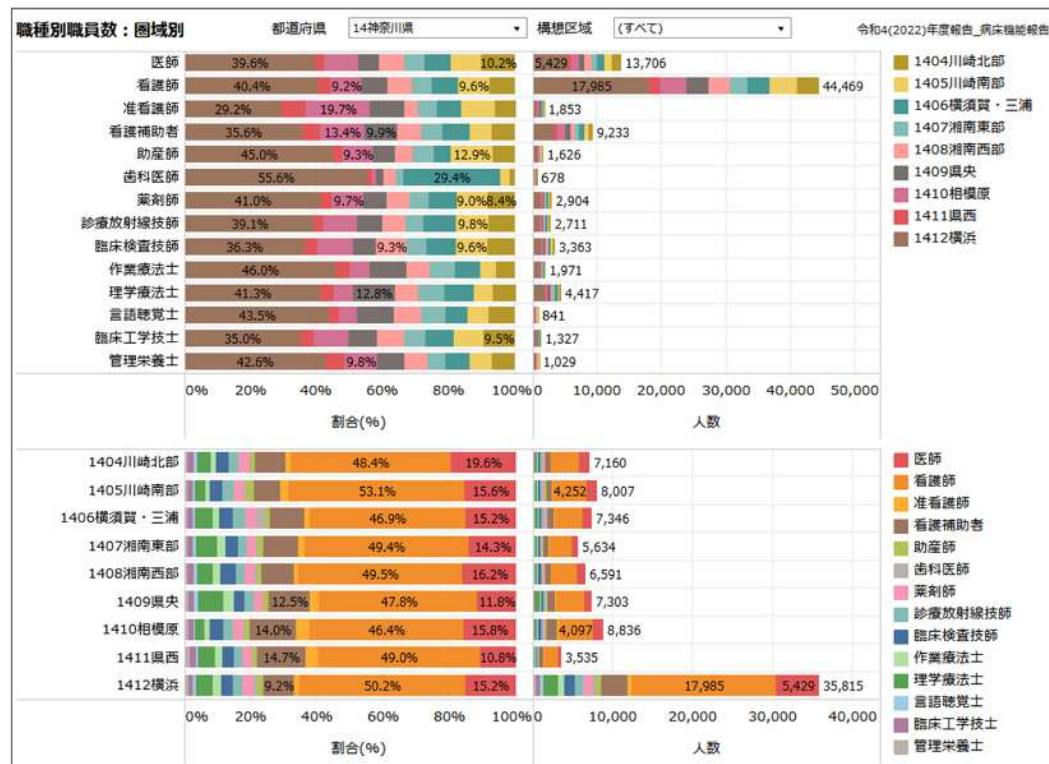
資料2



- 2040年に向けて、総人口の減少が見られる。75歳以上人口が1.04倍、生産年齢人口が0.81倍となる。大幅に減少する生産年齢人口で、高齢者の医療需要の増加に対応する必要がある、集約化しながら効率化を進めていく必要がある
- R4年の構想区域における回復期・慢性期の病床は、病床全体の約45%、慢性期のうち療養病床入院料を算定しているのが815床あり、サブアキュート、ポストアキュートの連携が課題
- 予定入院・院内転棟が多く、施設退院が少ない傾向
- 高度急性期の病床稼働率の低下が見られる一方で、回復期は稼働率が高い、一部慢性期病床は8割程度の稼働率の病床がある

湘南西部 医療従事者の状況(病床のある医療機関)

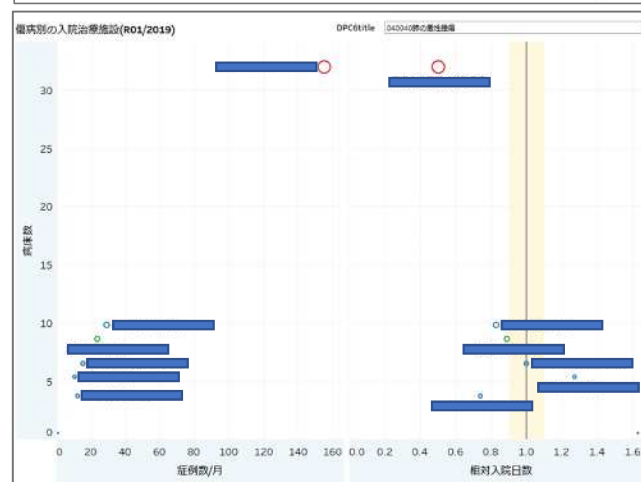
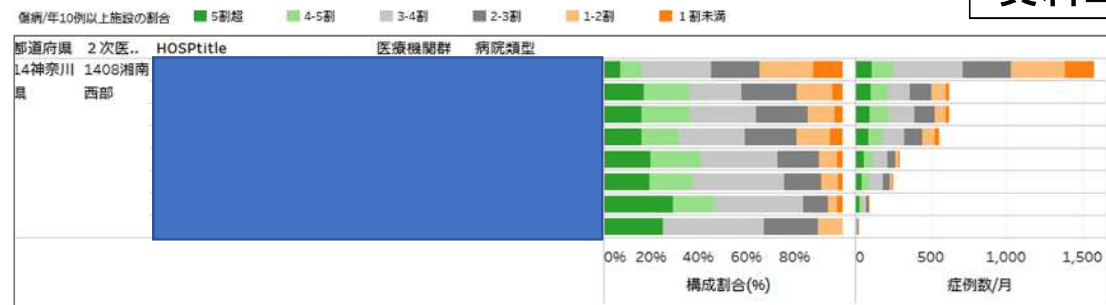
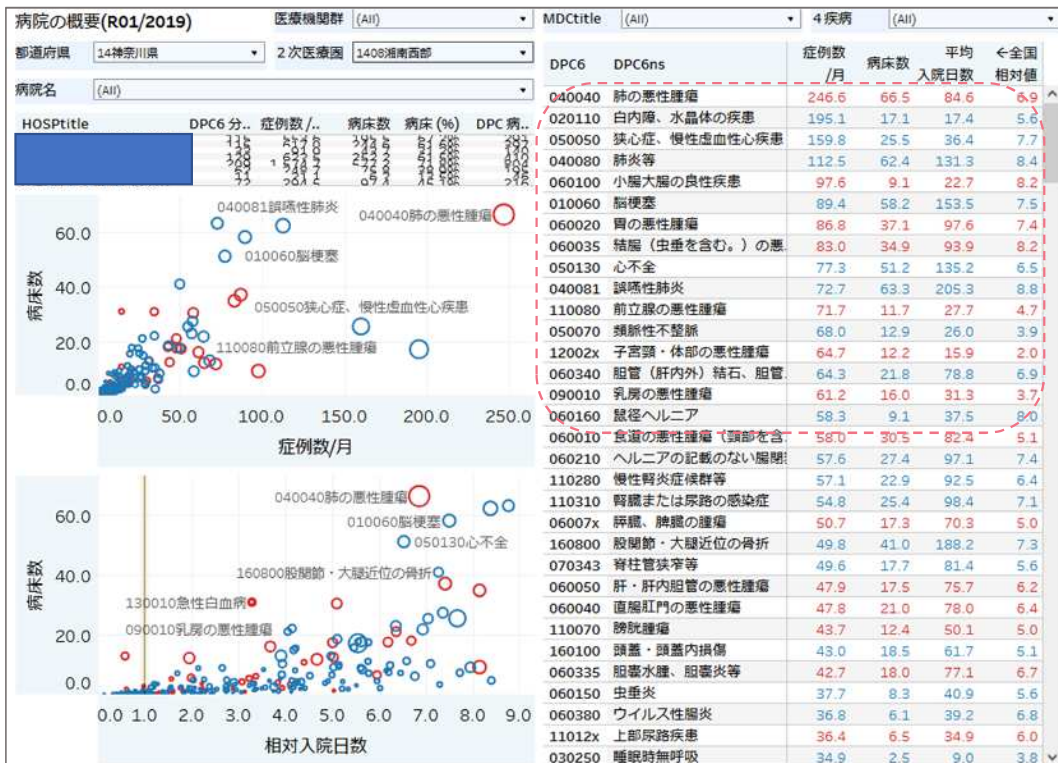
資料2



- 湘南西部は神奈川県全体と比較して、医療従事者のうち医師が16.2%を占めている、非常勤割合は10.9%と低い
- 看護師は49.5%と平均的
- 看護師は常勤3,014名、非常勤247名で非常勤割合は7.6%と低い、准看護師常勤58名、非常勤21名
- 作業療法士141名、理学療法士310名、言語聴覚士71名とリハビリスタッフは計8.0%

湘南西部 DPC病院の状況

資料2



構想区域の視点

湘南西部は、大学病院本院群1、DPC特定病院群なし、DPC標準病院群が5病院、DPC以外(準備病院/出来高)が2病院で構成
月間1500症例程度の入院を扱う1病院があり、3つに症例数が分布

傷病別の視点

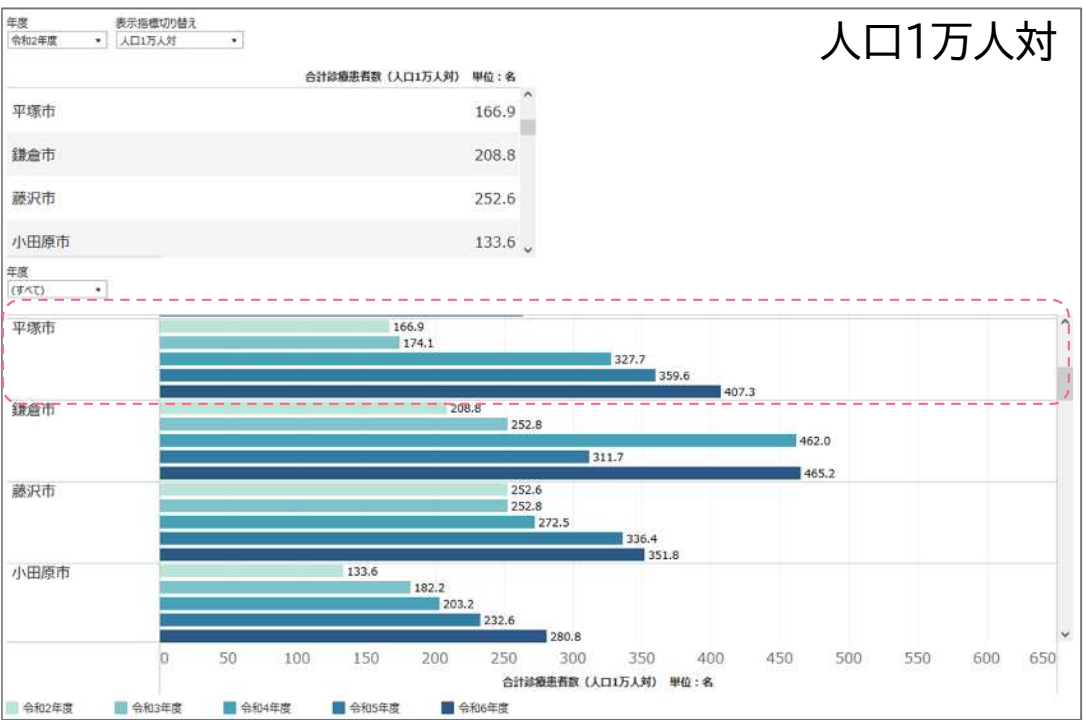
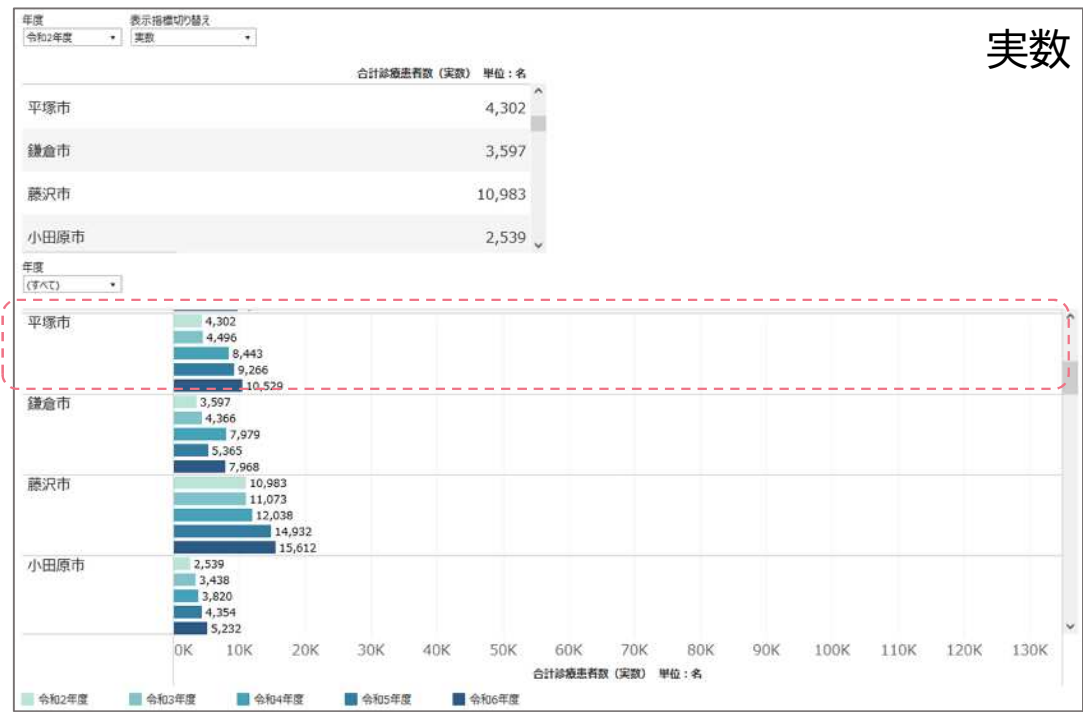
肺の悪性腫瘍は、7病院が実施、うちA病院が占有率63.0%、残りは10%以下

医療機関別の視点

強みを持つ診療科や手術実施状況など、個々の医療機関の専門範囲と実際の症例数を可視化

湘南西部(平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町) 直近1年に在宅療養を担当した合計診療患者数

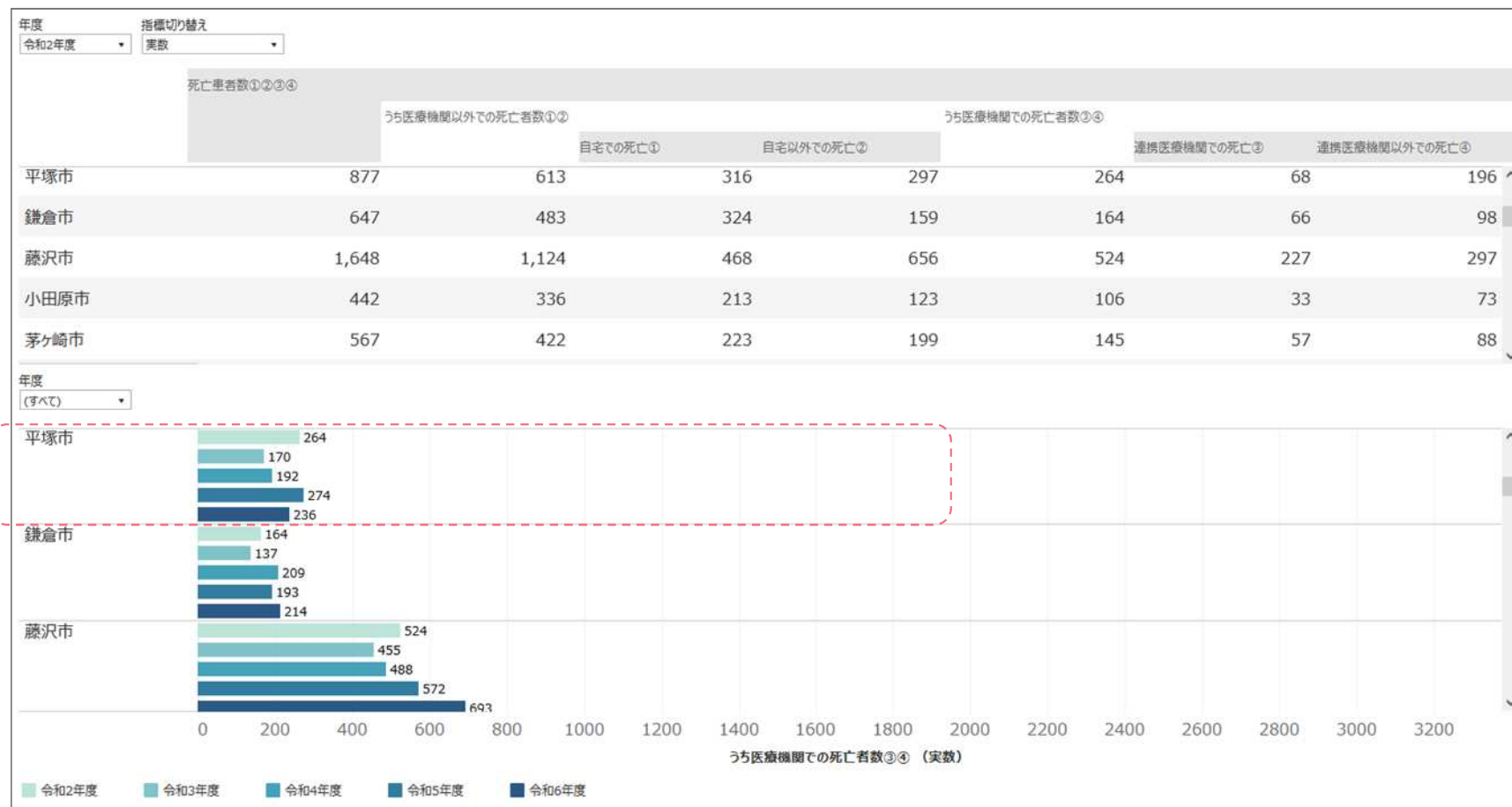
資料2



- 在支診および在支病が直近1年に在宅療養を担当した合計診療患者数
- 平塚市、秦野市、大磯町では合計診療患者数が増加傾向(実数)、伊勢原市、二宮町では減少傾向にある
- 人口1万人対も同様

湘南西部(平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町) 直近1年に在宅療養を担当した患者のうち死亡者数(看取り)

資料2



- R2年に平塚市で在宅療養を行った患者のうち、死亡したのは877件、うち自宅での死亡は316件(36.0%)、自宅以外の施設等での死亡が297件(33.9%)、医療機関での死亡は264件(30.1%)、うち連携医療機関での死亡は68件(7.6%)
- 湘南西部における医療機関以外(自宅・施設等)での死亡はR2年の75.7%からR3年に82.1%まで上昇したが、以降は減少傾向

湘南西部の地域の状況

- 2040年に向けて、総人口の減少が見られる。75歳以上人口が1.04倍、生産年齢人口が0.81倍となる※
- 大幅に減少する生産年齢人口で、高齢者の医療需要の増加に対応する必要がある※
- R4年の構想区域における回復期・慢性期の病床は、病床全体の約45%、慢性期のうち療養病床入院料を算定しているのが815床、回復期の稼働率が高く、急性期から在宅への復帰までの連携が求められる(P2)
- 他の地域と比較し、比較的医療従事者の非常勤割合は低い(P3)
- 急性期医療は医療機関毎のカラーが明確であり、機能分化が進んでいる(P4)
- 75歳人口あたりの在宅医療患者数(支援診)はR4年より増加。神奈川県内で比較的高い(P5より再集計)
- 支援診2、および3では、在宅・施設等での死亡割合は比較的高い
- 在支診の患者では、施設により自宅・施設での看取り割合のばらつきが少ないが、比較的ボリュームの多い診療所でやや低い傾向にあったため、その要因を検討したい

※人口関係データは神奈川県『神奈川県将来人口推計・将来世帯推計』による

※在宅医療関連データはtableauでは市別で表示していることから、一部構想区域別に再集計したデータを参考値として提示